

## 【入選】

# 「よみがえれ、阿蘇神社」を読んで 上天草市立維和中学校 1年 山下 湧心

僕は、三年前に起こったあの地震を今でも忘れられません。そして、熊本のシンボルのひとつである熊本城や授業で扱われた阿蘇神社などの建物が一日でも早く復興することを祈っています。

「よみがえれ、阿蘇神社」を読んで感じたことは三つあります。

まず一つ目は、「地震」は、私たちの大切なものも容赦なく壊したり奪ったりするという事です。当時のニュースでは、十四日の前震とその後の本震で、多くの場所で道路や建物に被害が出たことが報じられていました。倒壊した家屋一つ見ても、そこに家族の温かい思い出が詰まっていたのかと思うと、胸が苦しくなってきます。同じように、地域の方々にとって、思い出の詰まった阿蘇神社の倒壊による悲しみは僕には想像もできません。

二つ目は、地震後、神幸行列を行った地域の方々の再び地域を良くしていこうとする情熱と阿蘇神社を愛する気持ちの素晴らしさです。地震で家族や友人を亡くしたり、住む場所が変わってしまった方もいらっしゃると思います。そして、日本中に祭事を自しゆくするムードがあったなかで「今だからこそやらないと」と、神幸行列を行うことを決断されたことに感動しました。

三つ目は、普通に生活できていることのありがたさです。僕の住んでいる地域は、震源から距離があったため、大きな被害はありませんでした。しかしそれでも、コンビニエンスストアから食べ物がなくなったり、余震に悩まされたりしました。そこで、改めて普段不自由なく生活できていることがどんなに幸せなことなのかということを実感しました。

阿蘇神社や神幸行列をはじめとした建物や伝統行事も、普段は確かにあって当たり前、やって当たり前なのかもしれませんが、熊本地震を通して、改めて尊さやそれらが地域を豊かにするために必要だということを実感できたところもあると思います。地震で失われたものはたくさんあります。今、私たちにできることは、失って初めて気づくことや残されたものや今あるものの価値をもう一度見直すことなのではないかと思います。

僕は、地震に負けないとは、地震によって奪われたままではないこと、そこから当たりの幸せに気づき前に進むことだと考えています。このことを、しっかりと胸に刻んで生きていきたいです。